

自民は引き抜き攻勢へ

任期満了に伴う沖縄県議選は6月7日に投開票され、玉城デニー知事の与党が定数48議席のうち25議席を獲得、辛うじて過半数を維持した。一方、野党の自民党は4議席増。中立の公明党や旧日本維新の会を含めて23議席になった。

自民は今後、与党の保守中道議員の引き抜きを目指す。与党が議長を出し、1人でも野党に回ればたちまち少数に転落する。辺野古新基地建設に反対し、国と対峙する玉城知事は綱渡りの県政運営を強いられそうだ。

今年9月に任期の折り返しを迎える玉城知事にとっては中間評価となる選挙。県民に一定の評価をいただいた」としながらも、与党が1議席減らしたことに触れ、「予想より非常に厳しい結果」「現実を踏まえて真摯に県政運営に当たっていききたい」と述べた。

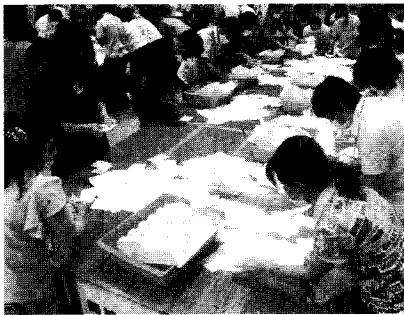
選挙区が小さい県議選は国政選挙や知事選に比べて地縁血縁の影響を受けやすい。政府は当初、少数与党転落による玉城県政の弱体化を狙って攻勢をかけたようとした。菅義偉官房長官に連なる勢力が保守中道の結集を目指してグループを立ち上げたり、菅氏自身も3月末に沖縄入りしたりした。

しかし、その後の新型コロナウイルス感染拡大を受け、公明が候補者4人のうち2人を取り下げた。支持母体の創価学会による熱心な選挙運動を懸念してのことだった。一方、政府は大幅に目算が狂った。「相手の事情」で命拾いした面がある。

沖縄の公明は党本部と異なり辺野古新基地に反対の立場を維持している。辺野古反対は与党と公明を合わせた27人で、県議会の新勢力でも多数を占める。

投票率は46・96%と初めて50%を割り込み、過去最低だった。投票日が大雨になったことも影響したようだ。コロナ下の選挙は運動の制約、投票回避があり、全国的にも低投票率が続いている。

阿部岳・「沖縄タイムス」記者



沖縄県議選の開票作業に当たる那覇市職員。6月7日夜、那覇市民体育館。(撮影/阿部岳)

元拉致被害者家族連絡会会長、横田滋さんを悼む 愛娘への思い、かなわず

「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」の横田滋初代会長が6月5日、老衰のため87歳で逝去した。

日本銀行職員として新潟赴任時代の1977年11月15日、前日が誕生日の滋さんに「おしゃれに気を使つてね」と櫛を贈ってくれた長女めぐみさん(当時13歳)は中学からの下校中、忽然と消えた。手がかりはなかったが1990年代、共産党関係者や『産経新聞』記者などの調査で北朝鮮による拉致が確実となる。しかし家族は「めぐみちゃんが殺される」と恐れ、実名公表に反対した。「匿名では意味がない」と勇気を出して実名公表を決めたのは滋さんだった。

2002年9月の小泉純一郎首相(当時)訪朝ではめぐみさんが「精神的な病気になる死亡した」と伝えられ涙に暮れた。めぐみさんの娘ウングヨンさんは「会いに来て」と訴えたが「北朝鮮に解決したことにされてしまう」との反対で断念。14年にモンゴルで会い「孫もめぐみに似てる」と喜んだ。

筆者は川崎市内にある横田さんのマンションで二度ほど長時間インタビューし、滋さんから丁寧なお手紙をいただいたこともある。二度目(15年3月)は前日に酔っ



横田滋・早紀江夫妻。2015年3月、川崎市の自宅マンションで。(撮影/栗野仁雄)

て転び頭を打ったとかで「好きなお酒、止めてるんですよ」と心配する妻・早紀江さんが語る思い出話や政府への期待を穏やかな表情で聞いていた。だが、ひとたび話し出すと愛娘への思いが堰を切り話が止まらなかった。

欧州で拉致された有本恵子さんの母・嘉代子さんが今年2月に逝去。政府認定の未帰還拉致被害者の親で存命者は父・明弘さんと横田早紀江さんだけになった。有本さんは「拉致被害者のため北海道から沖縄まで飛び回ってくれた。一番感謝しとる」と悼んだ。安倍晋三首相は「私の政権で拉致問題を解決します」と公言するなど、この問題で名をあげ出世した。横田滋さんの逝去に「断腸の思い」などと会見したが対応は「米国任せ」で北朝鮮に行こうともしない。

栗野仁雄・ジャーナリスト